

第1回鳥取県ふうせんバレーボール大会パラレル・ルール 競技上・審判上の確認事項

- ◎コート: バドミントンの外側ライン。サービスライン＝アタックライン
- ◎メンバー構成: ハンディープレイヤー＝3～5名。
アドバンテージプレイヤー＝1～3名 合計6名とする。
- ◎接触回数: 全員(6名)が触れ、10打以内に相手コートに返球する。
- ◎アウトボール: コートの外周がラインにかかればイン、完全に出ていればアウトとする。
(ネット通過も、支柱の想像延長線上にかかって返球されればインとする。)
- ◎ゲーム進行: 両チーム主審側から1番・2番・・・の順でサーブライン上に整列する。
基本的に、1・3・5番をハンディープレイヤーとする。
主審のホイッスルで挨拶し、コートキャプテンのジャンケンでサーブ権を決め、ゲームに入る。
(ゲームの進行は主審が行う、プレーヤ等の判断でプレーを止めない。)
- ◎サーブ: 2本以内にネットに触れずに相手コートに打ち込む。
ハンディープレイヤーは、サービスラインより前でサブを打ってもよい。
また、サーブトス・サーブ後1打のアシストを受けることが出来る。
互いのチームが得点に関係なく順番にサーブを打つ。
- ◎レシーブ・パス・返球:
同一競技者が連続して触れることは出来ない。・・・ドリブル
(10回以内であれば、同一競技者は、他の競技者にボールが触れ、全員が接触すれば何度でもプレーすることが出来る。・・・審判は10回のカウントと全員が触れたかを確認する。また、一連の動作の中での時差のないダブルタッチは、主審の判断によりOKとする。ラリー中にネット・支柱・車椅子等にボールが触れた場合はアウトしない。)
相手コートに返すプレーは全てアタックとし、ネットの高さより上のボールをアタックラインより前で打ち返した場合は、アタックヒットの反則とする。
(アタックラインより後ろからのアタックはOK。ただし、ジャンプしてのアタックは反則とする。また、アタックは1. 3. 5の選手しか出来ない。)
- ◎その他の反則
全員が触れる前に相手コートに返した場合・・・ナットオール
10打以内に相手コートに返球できない場合・・・オーバータイム
一人の競技者が連続してボールに触れた場合・・・ドリブル
ボールを持ったり、運ぶようなパスをした場合・・・ホールディング
サーブやアタックをジャンプして行った場合・・・ジャンプアタック
相手コート上のボールに触れた場合・・・オーバーネット
サーバーやアタッカーがサービスライン＝アタックラインに触れたり、踏み越したりしてプレーをした場合・・・ラインクロス
- ◎ゲーム終了: 10分の試合時間又は15得点先取のラリーポイント制。
サーブラインに整列し、向かい合う選手と握手をしゲーム終了。